

第46巻 第3号 予告

特集「新たな保健所機能」

- | | |
|-----------------------|------|
| 1. 動き出した保健所機能強化 | 奥村二郎 |
| 2. 保健所機能の今後の方向 | 重松峻夫 |
| 3. 保健所と福祉の連携に向けた現状と課題 | 岡田尚久 |
| 4. 保健所の機能強化に向けた現状と課題 | 阿彦忠之 |
| 5. 保健所の機能強化の可能性 | 長澤脩一 |
| 6. 岩手県盛岡保健所 | 田沢光正 |
| 7. 政令市の状況 | 沖 勉 |

編集後記

今回は現在の感染症を象徴する病原性大腸菌 O157 の特集となった。

私が公衆衛生院に入った1978年頃に、公衆衛生学において言われていたことは、「今や輝かしい医学の進歩により、人類は感染症の驚異から解き放たれ、これからは化学物質の人に対する安全性をどうするかが最も重要な課題である」ということであった。

それが幻想であったことをここ10年で我々は思い知らされた。レジオネラに始まり、エイズ、ヘリコバクターピロリ、MRSA、サルモネラ菌、狂牛病、そして今は O157 と次から次へと旧顔、新顔の微生物やウイルスが人を脅かす事態になっている。一体次はどんなニューフェイスが我々を脅かすのだろうか。そしてここ10年でこのような事態になった原因は一体何故だろうか。微生物が質的に変異した為か、あるいはヒトという生物が質的に変わってきたからなのか、それとも地球環境が変わった為なのか、ヒトをとりまくそれぞれの事態に対して対策を取ることも重要であろうが、何故このような事態がたった10年間に起きてきたかを根本的に考えることが重要ではないだろうか。

福原守雄（衛生薬学部）